



○事業趣旨

自然体験の特定の活動プログラムを指導する自然体験活動指導者（リーダー）を養成する。

○参加者内訳

| 対象 | 男 | 女 | 計 |
|-----|---|---|----|
| 学 生 | 3 | 0 | 3 |
| 社会人 | 6 | 2 | 8 |
| 合 計 | 9 | 2 | 11 |

○事業日程

| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---------------|---|----|----|------|---------------|----------------------|----|-------|-------|-------------|----|----|----|------------|----|----|----|
| 10月9日 (土) | | | | 受付 | ガイダンス | 自然体験活動の技術Ⅰ | 昼食 | 対象者理解 | | 自然体験活動の安全管理 | | | 夕食 | 入浴 | | | |
| 10月10日 (日) | | 起床 | 朝食 | | 自然体験活動の技術Ⅱ | 自然体験活動の技術Ⅲ ～野外炊飯～ | | | | 自然体験活動の特質 | | | 夕食 | 自然体験活動の技術Ⅳ | | 入浴 | |
| 10月11日 (月) | | 起床 | 朝食 | 点検清掃 | 青少年教育における体験活動 | 自然体験活動の指導 | 昼食 | 試験 | ガイダンス | 解散 | | | | | | | |

○研修内容○

「自然体験活動の技術Ⅰ」講師 増田 直人 先生（千葉県教育庁東葛飾教育事務所社会教育主事）

自然体験プログラムを実施する最初の段階として、参加者の緊張をほぐし参加者の仲間意識を育む「アイスブレイク」の実演を中心に講義・演習を行った。約20種類のアクティビティ実習を通して、受講者は、参加者同士が活発にコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができ、「スムーズに交流できるように教えていただき理解しやすかった」「アイスブレイクのアイデアが浮かばなかったのが、様々なアクティビティを体験して大変参考になった」など好評を得た。

「対象者理解」講師 増田 直人 先生（千葉県教育庁東葛飾教育事務所社会教育主事）

参加者が安全で安心できる環境の中で活動等を行うためには、活動の参加者（対象者）を正しく理解することが必要である。本講義では、対象者を理解するための情報収集の大切さや、対象者の相談等を「受容」「傾聴」「共感」してカウンセリングする必要性、対象者への配慮、各年齢期の特徴、ネガティブな考えをポジティブな考えに変換する「リフレーミング」等について学び、受講者からは、「参加者が10人いれば10通りの価値観があることを理解した」「一人ひとりの考え方が違うので配慮を持って指導することの大切さを知った」などの深い学びにつながった。



「自然体験活動の安全管理」講師 中村 正雄 先生（大東文化大学教授）

3時間の講義時間を「安全管理」「リスクマネジメント」「救急救命実習」3つのテーマに分けて講義を行った。「安全管理」では「安全とは何か」「安全と危険（チャレンジ）のバランス」「安全対策とは」など、基本的な考え方や定義について学び、「リスクマネジメント」ではグループに分かれ、活動中に発生した事故・アクシデントの例題から、どのような行動をとるかを討議し、意見を交換した。「救急救命実習」では心停止者発見からAED対応までの流れを実習した。受講者からは「安全と危険（チャレンジ）のバランスでは危険を意識しすぎると活動の楽しさやワクワク感が制限されることなどを知ることができ、深い学びにつながった」「説明が非常にわかりやすかった。事前にリスクを洗い出すことや変化する状況を受けてどのように判断するかが重要であると感じた」など好評を得た。



「自然体験活動の技術Ⅱ」講師 中野 充 先生（新潟青陵大学准教授）

自然体験活動を計画する際に必要な「アクティビティ」と「プログラム」の関係性など、プログラム構成の基本的事項を学び、また、講師が開発した様々な体験活動スキルを磨ける「野外力検定」から生き抜く力を育むために必要な知識や技術を学びながら、実際にロープワーク実習を体験した。受講者からは、「キャンプ等の体験活動に必要な技術や知識を知ることができた」「バリエーション豊かなロープの縛り方を身につければ様々な活動に活用できると感じた」など、自身のスキルアップに前向きな意見が多くみられた。



「自然体験活動の技術Ⅲ」講師 直江春香 飯山和也（国立磐梯青少年交流の家職員）

自然体験プログラムで「生活」「体験」の2つの要素を兼ねる野外炊飯プログラムについて実習を行った。当演習では、野外炊飯の「役割」「目的」「特徴」「用具」「安全管理」の基本事項を学び、実習ではダッチオーブンを使ったパエリア作りとスープ作りを行った。受講者からは「役割分担を明確にすると円滑に調理できることを体感できた」「ダッチオーブンの汎用性を知ることができた」「メニュー選びにもねらいがあることを知ることができた」など好評を得た。



「自然体験活動の特質」講師 菅原 遊 先生（フリーランス）

自然体験自然体験活動を行う上で、活動するフィールドの自然環境やフィールドに生息する動植物等の性質を把握し、その特性を活用した活動を実施することが重要である。当演習では、野外に出て、「葉っぱじゃんけん」「わけてみよう」「色探し」などのプログラムを実施し、受講者は磐梯の自然や、季節、気候を五感で感じた。受講者からは、「葉1枚をとって試してみても様々な特徴や特質があり、自然の奥深さを感じた」「フィールドの特質を踏まえたプログラムは観察力や感性が育めることを知った」などの気づきを得ることの評価が多くみられた。



「自然体験活動の技術Ⅳ」講師 菅原 遊 先生（フリーランス）

自然体験活動の特質を踏まえ、「夜」の自然体験で得られることをテーマに演習を実施した。演習では、ナイトハイックプログラムを实践し、ろうそくランタンを使用して夜の暗さに眼が慣れていく人体の適応力を感じるプログラムや、星空を静かにゆっくり眺める時間、夜の闇の中で風や匂いを感じるプログラムなど、夜だからこそ体感できる体験を学んだ。受講者からは「昼間とは違うドキドキワクワク感を感じることができ、安全の配慮のしかたも勉強になった」「視覚が制限されるからこそ他の感性を磨くことができることを知った」など、新たな発見ができた感想が多かった。



「青少年教育における体験活動」講師 福士 寛樹（国立磐梯青少年交流の家所長）

現代の子どもを取り巻く問題等の背景を知り、なぜ体験活動が必要か、体験から得られる効果、「生きる力」を育むには何が必要なのかなど、青少年教育の必要性・重要性を、行政の指針、家庭教育、学校教育、社会教育などあらゆる角度からアプローチしつつ、講師のこれまでの指導経験談をからめながら説明した。受講者からは「体験活動を指導する立場の人間として、重大な責務を背負っていると改めて実感した」「学習指導要領や様々な実態調査の検証データから、社会教育や自然体験活動がいかに必要かその意義を知ることができた」「道徳観や正義感を持った人となるためには少年期の体験活動が大切であることを理解した。そのためにも大人が積極的に子どもたちへ体験活動を提供することが必要である」など、指導者としての使命感に気づき、目的を明確にできたという感想が多くみられた。



「自然体験活動の指導」講師 齋藤 央顕（国立磐梯青少年交流の家職員）

自然体験活動において子どもたちを指導する立場にある人間に求められるものは何か？をテーマに、講義前半では、指導者に求められる能力と資質、心構えについて、講師の経験談や実際に起こった事例もからめながら説明した。後半では、様々な事例をどのように対応していくのが適切であるかグループ討議を行い、適切な判断、対応とは何かを考える時間となった。受講者からは「指導者に求められる能力について説明がわかりやすかった。コミュニケーションでは立ち位置が重要であることを知ることができた」「学び続ける指導者でありたいと思った」「求められる能力として資質・ソフトスキル・ハードスキルの3つがあったが特にハードスキルについてはOJTを通じ自発的に自身を研鑽していきたい」など新たなきづきや今後の自己研鑽への目標となったなど前向きにとらえる感想が多くみられた。



○成果と課題○

<成果>

- 新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた時期に実施できたため、青森から埼玉まで幅広い地域からの受講生を受け入れることができた。また、学生から行政職、青少年教育施設職員など、幅広い年齢層の参加者に参加いただいた。参加者の中には指導歴が全くない人の参加もあり、自然体験活動指導者の裾野を広げることができた。
- 昨年度の課題であった講師人材の発掘に対し、1名新たな講師を加えたことにより、よりバリエーションのある講義・演習を展開することができ、コロナ禍においても申し込みいただいた受講者の皆様に深い学びを提供することができた。
- 国立那須甲子青少年自然の家職員古谷氏に主任講師を務めていただき、各カリキュラムの導入と要点の振り返りを実施いただいたことにより、受講者により効果的な学びと意識づけを提供できた。



<課題>

- 一部講義でも触れていただいた内容もあったが、時代背景やニーズに応える研修を運営するために、コロナ禍における自然体験活動や安全管理を深掘りする内容を提案してもよかったのではないかと。
- 広報対象を昨年度同様に絞り広報をかけたが、他に自然体験活動指導者を志す団体や人に広報をかけることができたのではないかと。次年度は広報対象をさらに広げていきたい。
- 受講者の指導経験等を事前に把握し、指導経験が浅い・ない受講者がいる場合は、さらに基本的な事項についてカリキュラムを組むなど、受講者のレベルにあった日程の構築が必要である。